

バンクーバー便り34～『オーロラ探訪』

バンクーバー時間：2025年03月19日(水曜日)15時00分

日本時間：2025年03月20日(木曜日)07時00分

皆さんこんにちは。バンクーバー便り34をお届けします。

今回は、家内の職場の同僚看護師2名の方と私たち家族の5名で、オーロラ観光のためユーコン準州のホワイトホースを旅しました。今年はオーロラの当たり年だそうです。それは11年毎に太陽の活動周期が変動し、2025年7月頃に太陽フレアの発生する極期に向け、オーロラが発生しやすくなるということです。ユーコンの航空会社エアーノースで白銀の山脈を超えると①、人口2万7千人(ユーコン準州の8割に相当)のホワイトホース市が見えてきます②。この町はユーコン河上流にあり、河はアラスカを経てベーリング海峡に注ぎ込んでいます。アラスカの国境付近にあるドーソンに一獲千金の夢を求めて多くの金鉱堀達が集まり、ホワイトホースはその中継地でした。ホテルに着くと閑散としたロビーに当時の金鉱堀が使った道具類が展示してあります③。冬季にはホワイトホース港に氷漬けで停泊している外輪船④の進水式⑤、入港の風景⑥そして急流の航行⑦など、古い写真がホテル廊下の壁に掛けてありました。15時ごろ部屋の窓から眺めた町は殺風景でした⑧が、20時でも白夜のように明るく⑨、それは北緯60度(東京35度、バンクーバー49度)と高緯度のためでしょう。ホワイトホースはユーコン河の急流名に由来し、先住民たちは現代文明を批判した白馬のモニュメントを産業廃材で作っています⑩。

家内と娘はアイスフィッシングに出かけました。釣り好きには興味津津かもしれませんが、あいにく僕は釣りをせず、まして冷凍庫に足を突っ込んで、凍える手で細い糸を操りながら氷下の魚と問答をするのは、寒がりの僕には無理な話でした。氷上を橇で走り、75cmの厚い氷をドリルで削るなど、家内と娘には楽しい体験だったようですが、魚は釣れませんでした。天候などの条件で犬橇が中止になり、代わって僕たちは野生動物たちの保護区に行きました⑪。小型バスに乗り、係の女性の説明を聞きながら保護区内を回ります⑫。寒さのためか、バッファロー⑬やヤギ⑭は小さな群れをつくり、名前の紹介だけで姿の見えない動物もいました。

旅最大の目的であるオーロラ観光では、人里離れた山林の山小屋で夜10時から深夜3時までオーロラの出現を待ちます。旅は3泊4日。オーロラのみられるチャンスは3回(日)。家内と娘は眠さと戦いながら3夜とも頑張りました。そして、その日の午後には別のツアーがありますから、それは、それはハードな旅になりました。僕は最初の2日は欠席してホテルで休憩。残念ながらオーロラも欠席。お陰様で僕はハードな旅をハートフルな旅にできました。そして最終夜、我らの願いがかない、やっと曇り空が晴れて期待が膨らみました。そして僕も“夜の見張り”に参加することにしました。凍結した道路を猛スピードの車で30分ほど揺られ、山小屋に到着すると、いきなりオーロラが僕たちを迎えてくれました。山小屋で待つ人たちは大騒ぎ。ログハウスのテラスに殺到し、夜空を見て絶叫とOMGの連発。そこには満天の夜空を仕切る緑のカーテンが少しずつ姿を変えながら、無限の宇宙の彼方まで続いていました。早速、スマホを構えたものの僕の古いiPhoneではなかなか撮影できず、四苦八苦の末にとれた写真がこれ⑮。案内の男性が立派なカメラで、オーロラを背景に我ら仲間を並べone shot⑯。

眠気で霞のかかった頭をかかえて翌朝、エアーノースでバンクーバーに戻りました。



